

【著書紹介】

衣生活の科学

テキスタイルから流通マーケットへ

間瀬清美¹⁾ 薩本弥生²⁾ 編著

名古屋女子大学家政学部¹⁾ 横浜国立大学教育人間科学部²⁾

はじめに

『新版 衣生活の科学』は、人の健康を根幹にした上で身にまとう衣服について、テキスタイルから流通マーケットへの流れを網羅しつつ、温熱的快適性、縫製・適合性、着心地、衣服素材、加工・機能化、管理、ファッションビジネス、福祉、環境といった各分野の知識・技術を詳細に説明しているところに特徴がある。衣服は各自の家で自製する時代を経て、アパレル産業が台頭し既製服を着用するのが当たり前の時代になって久しいが、その間に流通においても様々な変遷があり今日に至っている。衣服が川上、川中、川下という段階を通して製造されていた頃は、ファッション小売業の上位は百貨店、総合スーパーで、この状況は比較的長く続いた。1990年頃から昨今は、商品企画から販売までを一貫して行うSPA（製造小売業）の位置づけが国内外を問わず大きくなり、大量生産よりも多種少量生産が望まれているためとも考えられる。現代は個人の価値観が尊重され、個人のファッションも多様化している。それに伴うようにアパレル産業を取り巻く状況も刻々と変化しつつある。衣服のグローバル化は、繊維・アパレル産業の技術革新や海外への移転、世界各地からの輸入繊維製品が出回るなど一早く進み、世界の衣服市場の動向においては中国が「世界の工場」から「世界の市場」へと変貌を遂げていくと予想されている。他にも「環境」「福祉」「高付加価値」「持続可能な衣生活」といった概念を取り入れながら、新しい衣生活を学ぶことが求められている。

本書の構成

1章の「衣服の温熱的快適性」では、体温、皮膚温、産熱、放熱など快適性に影響する温熱因子に着いて述べ、人体の体温調節機構を知る。着衣の熱・水分移動性能を健康に繋げる。2章の「衣服の適合性と運動機能性」では、骨格、筋、皮膚

などの人体の構造を把握した上で、人体形態の計測・体型を学ぶ。衣服のパターンや立体化を運動機能性向上に役立てる。3章の「衣服と感覚特性と着心地」では、視覚、触覚等の感覚を通して心理的にも身体的にも快適で安全な衣服を選択していることを学ぶ。また、風合い・着心地についても述べる。4章の「衣服素材とその基本的性能」では、衣服素材としてのテキスタイル「布」について述べる。衣服素材の種類や構造とその基本的性能について考える。5章の「衣服素材の染色加工と機能化」では、日本がこれまでに培ってきた高い染色技術、高機能な繊維や加工について、原理と技術について理解し学ぶ。6章の「衣服の管理と機能保持」では、衣服の特性をふまえた正しい手入れを行うことで、衣服の機能を長く保持することが可能になる。適切な衣服管理のあり方を考える。7章の「衣生活とファッションビジネス」では、衣服のマーケットを理解したうえで、日本のファッションビジネスの概要、マーケティング戦略について解説をする。8章の「衣生活と福祉」では、高齢者や障がいのある人の衣服を考える。残存機能を生かしながら更衣動作の自立を支援し、着用者の自分らしさを尊重することが大切である。9章の「衣生活と環境保全」では、世界全体での衣服の消費が増え続ける中、エネルギー・資源の節約や環境問題を取り上げ、より深刻な課題として考えていく必要がある。

<著者>

井上真理 川端博子 古濱裕樹 小原奈津子、
雙田珠己 藤田雅夫 (五十音順)

<連絡先>

〒467-8610 名古屋市瑞穂区汐路町3-40
名古屋女子大学 間瀬清美
電話：052-852-9419
eメール：mkiyomi@nagoya-wu.ac.jp